

# 住田町立住田中学校 校歌

作詞 菊池 蟬堂

作曲 梶原 弘勝

一 瀬音清かに輝く水面

流れ集まる気仙川

心ひとつに絆も強く

今こそ創る新しい時代

我らの声は空にこだます

ああ栄えあれ 住田中学校

二 種山にそよぐ永遠の風

誇れる郷土の気高さよ

理想の姿追い求め

伝え築こう新たな歴史

学びに挑む我らの姿

ああ誉れあれ 住田中学校

三 恵みもたらす五葉の緑

高みを求め若杉伸びる

強い心と体をもって

拓く我らの明るい未来

みなぎる命たくましく

ああ実りあれ 住田中学校

## 歌詞に込める思い

一 住田町はいくつもの歴史を重ねて現在に至っている。学校についても、それぞれの地域で大切にされてきたが、時代にあわせて再編されてきた。そして今般、中学校が一つになる。住田中学校だ。世田米中学校も有住中学校も地域で大きな役割を果たし愛されてきた学校だ。その二つが今一つになる。(世田米中学校も有住中学校も、かつて統合によりできた学校であることを考えれば、もつとたくさんの流れが一つになることになる) それぞれの地域の思いを込めながら、今こそ心一つにまとまり新しい学校を創る時だ。

気仙川はいくつもの沢から流れが集まり、支流と合流し一つの気仙川となる。新生住田中学校も、滔々と流れる気仙川のように一つにまとまり、たゆまぬ発展を遂げてほしい。それを成し遂げるのはここに集う同胞であり住田中学校の生徒と彼らを見守る地域である。

二 住田町は、他に誇れる伝統と文化を持つ町である。絶えることなく種山高原を吹きわたってきた風はその歴史を見続けてきた。金産出の歴史、南部藩との境で伊達藩の要衝であった地域、交通の要所として栄えた町、養蚕の盛んであった町、近代工業(栗木鉄山)が発展した町、森林林業日本一を標榜する町等々。これからも種山高原の風は止むことはない。そして住田町はあり続ける。

何といってもこれからの住田町の発展を担うのは若者たちである。住田中学校で学ぶ若者たちには、ぜひ故郷を知り愛し誇りを持ってほしい。そしてこれからの住田町を創ってほしい。そのために知識や創造力を身に着け、困難を乗り越え挑戦する意欲を培ってほしい。

三

住田町は霊峰五葉山をはじめ森林の多い町である。町の面積の九割ほどを占める。本当に緑豊かで自然に恵まれた土地だ。森林は災害を防ぎ酸素を放つだけでなく多くの恵みをもたらす。そしてそこにはたくさん命が息づきそれらの成長の支えとなっている。森林を構成する一本の杉。杉はまっすぐに天を衝くように伸び、高く太く育ち、そしてやがて欠かすことのできない社会の構造物となる。

まっすぐな心、健康な体は幸せな人生を送る源であり、社会の一員として活躍する基礎となる。住田中学校の生徒には健全な心と体を持ち個性を大切に幸せな人生を送ってほしいと思う。そして豊かな社会を構成する一員として活躍してほしい。住田中学校はそういう生徒を育てる森林のような学校であってほしい。